

R7すくわくプログラム報告



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0624
施設名	南大沢保育園
施設所在地	東京都八王子市南大沢4-11
法人名	九頭竜会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

3歳児クラスの取組 自然（砂・土・泥）

<テーマの設定理由>

園庭に出ると真っ先に砂場に向かう3歳児クラスの子どもたち。一人でじっくり遊ぶ子、友達や保育士とやり取りをしながら遊ぶ子、砂の感触を楽しみながら夢中になっている。子どもたちの大好きな遊びをクローズアップして、より豊かな経験につなげたい。

2. 活動スケジュール

令和7年6月～7月 砂遊び～泥水遊び～色水遊び～砂に色つけ
令和8年2月～3月 色砂のごっこ遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

砂場

シャベル、ふるい、バケツ、カップ、水、絵の具、攪拌用の小さいへら

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

砂場に水を持ち込んで遊ぶ
色水遊びから興味が広がり、砂に着色したい子が出てくる
砂に絵の具を混ぜてみる
色のついた砂で遊ぶ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

6月砂場は温かい「あったかい」「気持ちいい」との声。日陰はどうか保育士が問うと手をいれて「冷たい」温度の差に気づき、砂の感触を楽しんだ。
保育士がバケツに水を用意して持っていくと、「うわー」「早く流して」と興奮気味「水を流すとどうなるかな？」と声がけしながら流すと、「色が黒くなったね」と湿った砂を触り、「白いのも黒いのもあったかいよ」と声上がる。
後日「砂に水を混ぜたら黒くなったけど、他の色はどうだろう」との保育士からの声掛けに砂と絵の具を混ぜる遊びが始まる。「ねるねるねるねみたい」とただひたすら混ぜる子、混色する子それぞれ楽しんだ。酷暑と工事のため砂遊びは一時中断。
2月に園庭が使えるようになり、保育士が色のついた砂で遊ぶことを提案「アイス作りたーい!」「かわいいお団子が出来たよ」と見せ合う。色月泥がついた手を見せ合い盛上る。一人一人カップに色砂を入れて遊んでいたが、「いらっしゃいませ」「〇〇ください」と友達とのお店屋さんごっこも始まった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

砂と水、絵色の変化や砂の感触など友達と見せ合ったり、一緒にやり取りしたり夢中になって取り組んでいた。子どもの様子をじっくり観察していると、砂遊び、泥遊びを通して一人一人の子が、気づきを持ち、好奇心をもって、いろいろと考えて遊んでいる印象を受けた。遊びの中で楽しみ、学びながら得た経験が次の遊びにつながっている事を実感した。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0624
施設名	南大沢保育園
施設所在地	東京都八王子市南大沢4-11
法人名	九頭竜会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

4 歳児クラスの実組 自然と色

<テーマの設定理由>

戸外に出かけると砂や石、草や花、虫など様々な自然物を拾い、自ら自然と関わり遊ぶ姿が多くみられる。

制作活動に期待を持ち、特に折り紙や絵の具等、提供されるいろの数が増えると y おり楽しそうに活動に参加する姿が見られる。

2. 活動スケジュール

7月 絵の具で色水遊び 5つのいろを自由に混ぜたら？
11月 秋の葉っぱの観察 何色だろう？

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵の具遊び…絵の具 透明カップ スプーン 筆 画用紙
秋の葉っぱの観察…落ち葉 クレヨン 色鉛筆 ブッカー 白画用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

7月 絵の具遊び 赤青黄緑白の5色の色水（絵の具を溶いたもの）を混ぜてオリジナルの色を使って絵を描く。子ども自身が色や量を調節しながら目的の色を作る過程を楽しんだり新しい色ができる喜びを感じながら色への関心を深めていく。

11月 秋の葉っぱ観察 秋の紅葉を楽しみながら、葉っぱの大きさや形色に注目しながら落ち葉を集めを楽しみ園に持ち帰る。自分たちがひろった葉っぱを白画用紙に型取り、葉っぱを観察しながら色鉛筆で塗ったり、葉脈を描いて葉っぱの絵を描く。本物の葉っぱを隣に貼って比較した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・今までの経験から混色で何色ができるかを知っている子も含めて、様々な色の組合せを実験的に体験して実際に色が変化していく様を興味深く見て、知識を積み重ねた。

・スプーンですくう事で、「ちょっと少ないかな」「今度は多かった」など自分で調整することが出来、色だけでなく「量」についても考えを深めながら遊んでいた。

・互いに見せ合ったり色の良さを認め合う姿、質問や教え合う姿が見られコミュニケーションが深まった。

・秋の散歩での落ち葉集めは、数をたくさん集めることが目的だった子が多いが、「〇〇君のおっきいね」「これは赤色だね」と保育者が声をかけると「色」「形」「大きさ」にも興味を示して集めるようになった。

・絵を描く葉を選ぶのに各自時間をかけていた。形を取りながら「〇〇みたい」と連想したりイメージを楽しんでいた。

・その後の散歩でも周囲をよく見て歩くようになり「この前は赤かったのに茶色になってる」「しわしわになってる」等時間の経過による色や質の変化に関心を持っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

・一斉活動では興味がない事だと雑になりがちだが、子ども自身が興味を持って取り組む活動だと意欲的で根気よく取り組む姿、丁寧に取り組む姿があった。

・おなじ興味関心の中での取組は保育士が何か言わずとも自分で考えたり友達同士相談し合ったり、教え合う姿も見られ自然と友達とのコミュニケーションも深まり、ともに学び合おうという姿があるのを感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0624
施設名	南大沢保育園
施設所在地	東京都八王子市南大沢4-11
法人名	九頭竜会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

5歳児クラスの実組 自然（ダンゴムシの飼育）

<テーマの設定理由>

散歩にい行く機会が多く子どもたちは動植物に触れて遊ぶことを好み、その中でもダンゴムシは寒い時期を除いていつでも簡単に捕まえられるので関わる子どもが多かった。ダンゴムシの飼育を通し世話や観察を行い興味関心を広げられるとよいと考えた。

2. 活動スケジュール

令和7年6月～7月

飼育開始→ケースでの飼育環境の工夫→世話の仕方を知る→

観察を通じて気づきを広げていく→飼育・発見を楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

飼育ケース 小→大

昆虫図鑑・月刊幼児向け総合絵本等数冊

霧吹き ビニール袋

子どもたちが餌をもらいに行く給食室スタッフとの連携

観察用拡大顕微鏡

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日々園庭や散歩先で見かけ、親しんでいるダンゴムシがどのように生活をしているのか、飼育をしてみることで知っていく。観察や世話を通じて様々な発見をし、自分なりの考察をしたり、図鑑などを活用して生態について知識を得たり、探究を進めていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

公園に遊びに行くときに担任が小さな飼育ケースを持参。目ざとい子が「ダンゴムシ入れていい?」と聞きに来て集め始めた。餌のつもりで葉を入れ、食べる場所が見たいという事で逃がさずに持ち帰る。念のため担任が茄子とニンジンを入れておく。翌々日、観察していた子が「食べてる!」と声を上げると数人が集まり、興味深く見る。餌を調べようと本を探す。「ニンジンでしょ、キャベツでしょ、新聞紙、段ボールも!」「明日給食の先生にキャベツもらおう。」「もっといっぱい育てたい」担任は大きな飼育ケースを準備した。休み明けの月曜日死んでいるダンゴムシを見つけ、「お休みでやってなかったことなんだろう」の声。絵本を調べ、湿り気と餌が腐るいう事に気づく。腐葉土をもらって土と混ぜケースに入れる。湿り気はティッシュを使ってケースに水敵を付けていた。飼い始めてから1週間ほどで、「自分たちがお世話する」と行うようになる。9時になると給食室に「ダンゴムシの餌下さい」ともらいに行く。水の入ったスプレーボトルを置いておくと、気付いた子が湿り気を与える。もらった数種類の野菜を与え、食べるものと食べないものがあるのに気づく。担任が野菜の名前を書くとその横に○×を付けてチェックし始めた。その後、餌の交換や死んでしまったダンゴムシを園庭に埋める等、秋口まで世話を続け、冬になる前に公園に返した。赤ちゃんダンゴムシの誕生や、脱皮した抜け殻なども発見していた。デジタル顕微鏡で観察すると、他のものも拡大して見て楽しむ遊びが始まった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

こどもの興味に対する保育士の関わりかたで、活動が豊かに発展していくことを確認した。子ども同士で広げ合い、共有することで新たな関係が広がることを確認した。一つの題材での活動で子ども一人一人の興味の持ち方、行動力など今まで担任に見えづらかった姿が現れてとても新鮮だった。顕微鏡でダンゴムシを見た時は、図鑑で見るよりも強く刺激を受け、驚きや発見気付きがあり豊かな時間になった。